

東かがわ市での高病原性鳥インフルエンザの発生に伴う野鳥調査の結果について

東かがわ市の家きんにおける高病原性鳥インフルエンザの発生を受けて、11月9日から11日にかけて実施した野鳥調査の結果についてお知らせします。

記

1 調査結果

野鳥監視重点区域内において、渡り鳥が多く飛来するため池など18箇所において、生息状況調査、死亡野鳥調査等を実施した結果、野鳥の大量死等の異常は確認されませんでした。
※11月10日に死亡野鳥を1羽、11日に3羽回収されましたが、簡易検査の結果、いずれも陰性でした。

(参考) 野鳥調査で観察された鳥類

区分	種数	具体的な種名
検査優先種1	5種	シジュウカラガン、ヒドリガモ、キンクロハジロ、カイツブリ、ハヤブサ
検査優先種2	4種	マガモ、ホシハジロ、オナガガモ、オオバン
検査優先種3	13種	カワウ、アオサギ、コガモ、カルガモ、ハシビロカモ、オカヨシガモ、ヨシガモ、ウミネコ、セグロカモメ、オオセグロカモメ、トビ、ハイタカ、ミサゴ
計	22種	

※ 検査優先種とは、香川県高病原性鳥インフルエンザ対応マニュアル(野鳥編)において感染して死亡しやすい種を中心に設定(裏面)

2 今後の対応

- 引き続き、野鳥監視重点区域において、野鳥の監視を継続します。

検査優先種

検査優先種1(17種) 目的:早期発見のため		* 高病原性鳥インフルエンザ(H5 亜型)に感受性が高く、平成22~28年の発生時を合わせた感染確認率が5%以上であった種。	
目・科	種	目・科	種
カモ目カモ科	シジュウカラガン	カイツブリ目	カイツブリ
	マガン	カイツブリ科	カンムリカイツブリ
	ヒシクイ	ツル目ツル科	ナベヅル
	コブハクチョウ(※1)		マナヅル
	コクチョウ	チドリ目カモメ科	ユリカモメ
	オオハクチョウ	タカ目タカ科	オオタカ
	コハクチョウ	タカ目ハヤブサ科	ハヤブサ
	オンドリ		
	ヒドリガモ		
	キンクロハジロ		
重度の神経症状が観察された水鳥類(※2)			
検査優先種2(11種) 目的:さらに発見の可能性を高めるため		* 過去に日本と韓国等において死亡野鳥で感染確認のある種を含める。	
目・科	種	目・科	種
カモ目カモ科	マガモ	タカ目タカ科	オジロワシ
	オナガガモ		オオワシ
	ホシハジロ		ノスリ
	スズガモ		クマタカ
	トモエガモ	フクロウ目	フクロウ
ツル目クイナ科	オオバン	フクロウ科	
検査優先種3 目的:感染の広がりを把握するため		* 水辺で生息する鳥類としてカワウやアオサギ、検査優先種1あるいは2に含まれないカモ科、カイツブリ科、ツル科、カモメ科の種を、また鳥類を捕食する種として検査優先種1あるいは2に含まれないタカ目、フクロウ目、ハヤブサ目の種を対象とした。	
目・科	種	目・科	種
カツオドリ目ウ科	カワウ	チドリ目カモメ科	上記以外全種 (セグロカモメ、ウミネコ等)
ペリカン目サギ科	アオサギ	タカ目	上記以外全種 (トビ等)
ツル目ツル科	上記以外全種 (クナヅク等)	フクロウ目	上記以外全種 (コミズク等)
カモ目カモ科	上記以外全種 (カガモ、マガモ等)	タカ目ハヤブサ科	上記以外全種 (チョウゲンボウ等)
カイツブリ目 カイツブリ科	上記以外全種 (ハジロカイツブリ等)		
その他の種			
上記以外の鳥種全て			

※1外来種

※2 重度の神経症状とは、首を傾けてふらついたり、首をのけぞらせて立っていられなくなるような状態で、正常に飛翔したり、採食したりすることができない状態をいう。